

(様式3)

令和6年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 実績報告書

市町村名	江津市	公民館等の名称	郷田地域コミュニティ交流センター (渡津地域コミュニティ交流センターとの合同事業)
------	-----	---------	--

事業の目的	子どもの自立を促す通学合宿のサポートを通して、地域住民が子どもの実態を知るとともに地域ぐるみで行う子育ての大切さに気づき、仲間の輪を広げていこうとする思いを持つ。
事業の内容	○ターゲットとする世代 30～60代で子どもの活動に関心がある保護者、ミドルエイジ世代
	○地域の状況やターゲットにした理由 校区における子どもを対象とした様々な事業において、活動を支える地域人材の高齢化や後継者不足の問題がある。また、保護者の意識の中で、支え合いの精神よりも合理化が優先され、地域の奉仕活動や行事等に関わりたがらない保護者も現れている現状がある。コロナ禍の影響で、この通学合宿が数年間途切れたため、関わっていただくサポーターも新たに発掘する必要が出てきた。2年後には、コミュニティ・スクールが立ち上がる予定であるため、地域としても、地域全体で子ども達の成長を見守っていこうという雰囲気を作っていかなければならない。この通学合宿をきっかけに、積極的に子ども達と関われる大人を取り込み、ひいては、中心となって地域の子ども対象事業を牽引してくれる人材を育てていきたい。
	○通学合宿の概要 対象：郷田小学校、渡津小学校の4年生(希望者) 日数：3泊4日 実施場所：島根県立少年自然の家 実施時期：11月27日(水)・28日(木)・29日(金)・30日(土) 参加生徒数：郷田小学校9名・渡津小学校13名 生活支援スタッフ：9名(宿泊サポーター)
	○生徒の募集 郷田小学校、渡津小学校に、江津市社会教育担当者・郷田コミュニティ担当者・渡津コミュニティ担当者が出向き、それぞれの校長先生に趣旨を説明し理解をいただく。 4年生担当の先生にお願いし、「通学合宿案内」を生徒に配布し募集した。
○実施要領 合宿要領については、日程・時間割・持ち物等を記載した参加の「しおり」を作成し配布した。・・・〈添付資料〉	
○ねらい 『自律と自立を育み、人とつながる能力の育成』 ◇自律：ノーメディアと規則正しいプログラムで生活習慣、学習習慣を身に付けること。 ◇自立：ロボット教室、自然体験(天体観測) 社会人の講話などから将来を考える機会とする。	

◇つながる：集団生活、なかまづくり、役割分担の体験を通じて「協調性やコミュニケーションスキル」獲得の一助として。

○具体的取組内容

「3泊4日の通学合宿」

学校と地域をコミュニティ協議会がつなぐ役目として「通学合宿」を実施、子供たちがテレビを見ない、ゲームをしない生活を通して、身の回りにあるチャンスを生かし、毎日の勉強や宿題・読書をし、手伝いをする習慣を身に付けることで未来は開けます。

今まで知らなかった人たちと生活を通して相手の気持ちを一生懸命考えながら、積極的にかかわりを持つ。

① 「普段できない体験を通して考え方・見方を広げよう。」

② 「もてなす・してあげる」ことで得られる喜びを感じましょう。

喜びには3つあります。「自分がしてもらった喜び」「自分でできるようになった喜び」「人にしてあげる喜び」を感じられる人は幸せになれます。

・夕食のとき、一緒に泊まってくださる大人の方の配膳。

・寝るときの布団の準備。(シーツの準備・かたづけ)

・一緒の班の友達への温かい声掛け・思いやりのあるふるまいを通して。

◆ 約 束「班のみんなで声を掛け合いながら」

1. あいさつ、返事、靴そろえ

2. 行動予定表を見て、3分間前行動を

3. 今までの自分と違う自分に

◎ 江津市立郷田小学校児童と江津市立渡津小学校児童の合同で実施し子ども同士の絆を深め友だちづくりをする。

○期待する成果・効果

・新たなサポーターが活動に加わることで、サポーターの後継者不足が解消される。

・子どもとサポーターが繋がることで、日常的な関わりのきっかけが増える。

・小学校区を越えたサポーター同士が繋がることで、中学校区として子ども達の成長を支える地域住民の輪が広がる。

・コミセンとの関わりができ、他のコミセン事業への参画が期待される。

○子ども：人間力・生活力・忍耐力が身につく、規則正しい生活ができるようになる。

：子どもたちが地域の方々を知ることにより、「安心・安全」なまちづくりが期待される。

○保護者：子どもの大切さや、子どもと地域のつながり、家庭教育について考える機会となる。

：子育て世代の保護者が地域の実情を知り、まちづくりの取り組みに積極的に参画するきっかけとなる。

○地 域：地域住民のつながりが生まれ、地域活動に積極的に参画する意欲が生まれる。

：地域の子供たちと色々な話をする事で地域の絆が生まれ、子どもの事故防止等のきっかけとなる。

○計画書に記載された「期待する成果・効果」を振り返って見られた成果や課題、次年度以降の見通しなどをご記載ください

(成 果)

・今回、新たなサポーター3名が活動に参加して、サポーターの幅が広がり、後継者不足の解

成果と課題
今後の見通し

消が期待される。

- ・子どもとサポーターが繋がることで、日常的な関わりのきっかけが増え、各所での出会いに積極的にあいさつや、声をかけてくれる子どもが増えた。
- ・他のコミセンとの関わりができて、コミセン同士の繋がりが、他のコミセン事業への参画が期待される。

(課 題)

- ・子どもと慣れすぎ、子どもが一步引くくらいの距離感
- ・サポーターの数が少ない
- ・保護者・サポーターへの説明・打合せの機会を増やす。
- ・子どもの負担金は、2,000円でよいのか？（助成金では食費が賅えない）
- ・学校で教えること、家庭で教えることがごっちゃになっている。

(次年度以降の見通し)

- ・時 期・・・学校行事や他の団体の少年自然の家利用を考慮すると、11月以降となるのでは。
- ・宿泊数・・・要検討
- ・ねらい・・・どういう方向に引っ張っていくのか？
- ・継 続・・・次年度も続けて行く予定